

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズアイランドワイキキ			
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 25日	～	令和6年 11月 1日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 25日	～	令和6年 11月 1日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団プログラムに関しては、新報酬改定による五領域を満たす内容になっていること。また個別課題に関しては一律して全員に同一の物提示するのではなく、読み書き・数字・作業課題・工作等、それぞれのご利用者に合わせて内容を提示できている。	特に個別課題の内容に関しては、支援員が横に付いて実施することで、内容がご利用者に対して適切か不適切かを判断しやすい状況を環境面として作っていることや、個別課題作成担当が把握しやすいように、フィードバックが可能な用紙をプリント等と同時にクリアファイルに入れて事前準備をすることで、翌日以降に実施状況を確認できるようにしている。	その場その瞬間での、実施状況も個別課題作成担当が把握しやすいように、フロア内での声掛け・定期的実施されるカンファレンスでの個別課題の実施状況の伝達を詳細に行っている。
2	遊具の後片付けや、個別・集団プログラムの挨拶、人前での発表等を、率先して行えること。	ご利用者が率先して行えるように、支援員が全てをやってしまうのではなく、一緒にやってみたり声かけだけに留めてご利用者の行動を見守るのみなど、ご本人自身で考えて行動できるような支援を行っている。	ご利用者の方々が行える、「お手伝いの内容」を充実させるように、受け入れ前の時間やカンファレンス中に内容の項目決めが定期的実施できている。
3	ご利用者自身の切り替え・感情のコントロール等が、ご本人たち自身でできるようになってきたこと。	「～しないでね。」などの否定的な言葉は使用せずに、「～する人は…しようね。」のような、共感→肯定の指示出し等を徹底すること、一日のスケジュールを行い、見通しを良くすることで感情・行動の整理をご本人自身で行えるようにしている。	特に集団でのご利用の方の場合、感情の切り替え・正しい行動ができた時には、そこに対して全てを賞賛できるように、日頃からご利用者の様子を役職・職種問わず、ご利用者のご利用中の時間帯は全員でフロア内の見守りを実施すること。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学のタイミングでの退所が目立つこと。	比較的、軽度なご利用者の方が多いため就学のタイミングで支援級ではなく普通級に進級するので放課後等デイサービスを利用する必要がなくなること。	保育園からの紹介等で、就学後も放課後等デイサービスが必要なお子様の受け入れを強化していく。
2	児童発達支援の受け入れが現在以上は難しいこと。	多機能型事業所で放課後等デイサービスのご利用者の方々と合わせて定員10名という状況があること。	放課後等デイサービスのお子様のキャンセル待ち利用と児童発達支援の新規受け入れの人数バランスを考えて受け入れ体制を強化していく。
3	保育園・相談支援事業所・他事業所との交流がほぼ無く、閉鎖的な状況で保護者の方の面談での情報共有しかできないこと。	当事業所だけでなく、他事業所や保育園等のスタッフや先生方も多くの業務を抱えていらっしゃる、ご利用者に関わる全ての大人を一つの場集めてサービス担当者会議を頻繁に実施することが難しいこと。	管理者・児童発達支援管理責任者だけでなく定期的に実施されるサービス担当者会議に支援員を積極的に参加させることで、交流が図れるように、また交流しやすいような環境づくりを行う必要がある。